

龍谷山 廣禪寺

曹洞宗伊賀中本山の廣禪寺は1414年（応永21）快翁玄俊大和尚が福井県今庄より津を経て伊賀へ来錫し、殿堂を建立し宗風を振ったことに始まる寺です。特に1608年（慶長13）九世利天慶勝大和尚の代には藤堂高虎家臣渡辺勘兵衛の帰衣を受け、現在の伽藍の完成を見ました。

境内には県文化財指定の「転輪蔵」が見られ、本堂内には県指定文化財の「木造聖観音菩薩立像」（約166cm）が安置されています。

又墓地には江戸時代の南画完成者池大雅の筆になる「喜田村 常輔」号の墓石や大正から昭和に伊賀で過ごし多くの日本画を残した前田呉耕の墓石も残されています。そして近年、曹洞宗開祖道元禪師のお言葉には「坐禅は大^{ざぜん}安楽の法門なり」があります。坐っているその姿こそが、そのまま仏の姿であるとの教えにより堂内にて坐禅体験が開催されており身体を整え、呼吸を整え、心を整える体験をされる方が増えてきております。（毎月第二第四土曜日16時より）そして第四十世武内宏道住職の有意義で解りやすい法話が好評であります。春はツツジ、夏は百日紅の花が咲き、秋になると色づく大銀杏の木が庭を彩り、訪れる人の目を楽しませてくれます。お寺の事はインターネットで伊賀市上野徳居町3260広禪寺で検索できます。

※参考資料 前田呉耕生誕130年記念誌

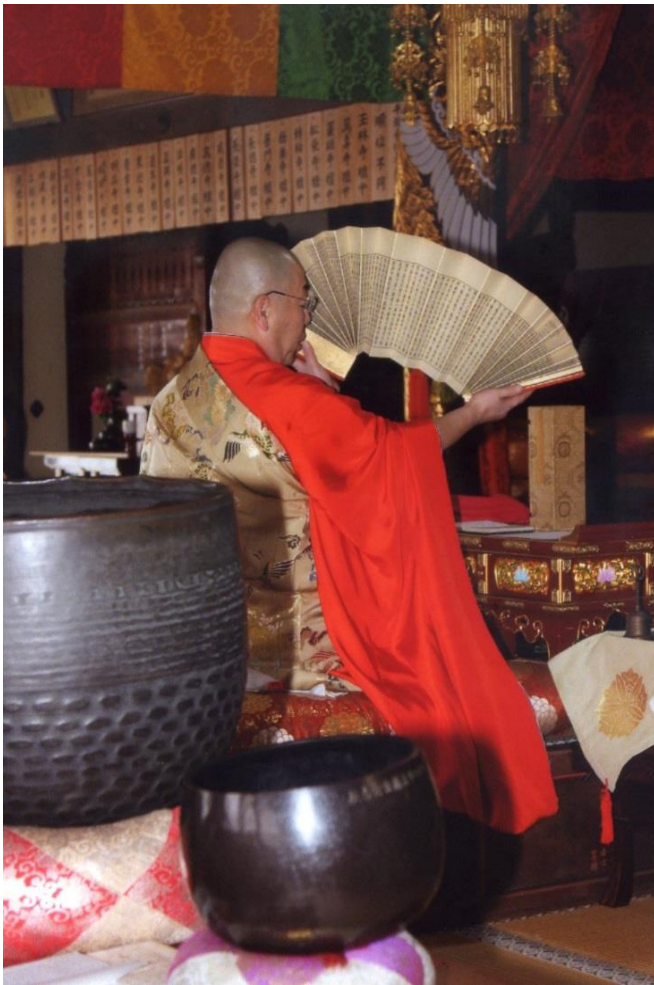
取材協力 廣禪寺第四十世武内宏道住職



本堂内陣



木造聖観世音菩薩像



二月三日の星祭



轉輪藏